

昭和十三年一月

疾病及醫療に関する調査資料

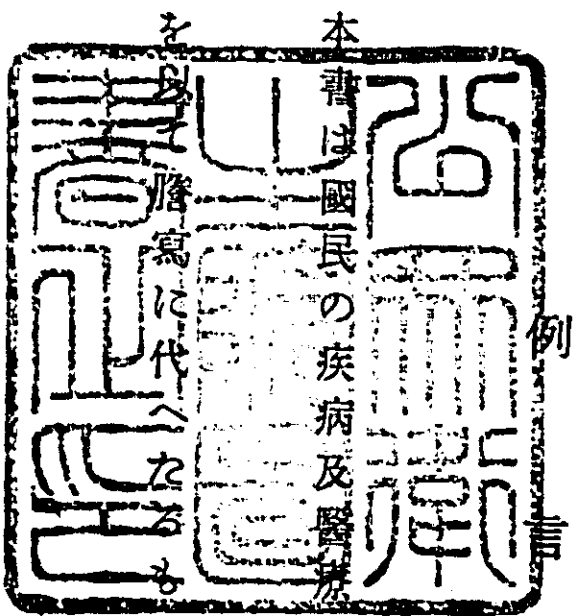
〔代 謄 寫〕

保
險
院

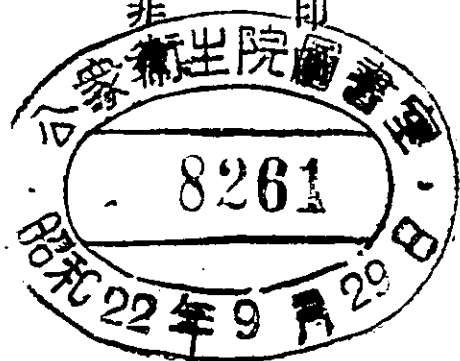
国立東京大学医学部附属病院



10012009



本書は國民の疾病及醫務に關する資料を蒐集し便宜印
を以て謄寫に代へたるものにして公刊するの趣旨に非



目次

第一部 疾病死亡に關する資料

一、疾病死亡の概況……………	一頁
(一) 各國の死亡率……………	三
(二) 各國の乳兒死亡率……………	四
(三) 各國の原因別死亡……………	五
(四) 各國の平均壽命……………	八
(五) 年齡別死亡率……………	九
(六) 人口千人に付患者數……………	一〇
(七) 各國の結核死亡率……………	一一
(八) 結核豫防法に依る醫師届出結核患者數……………	一二
二、地方別疾病死亡……………	一四
(一) 府縣別疾病率……………	一五
(二) 都鄙別疾病率……………	一六

(三)	府縣別死亡率……………	一八
(四)	都鄙別死亡率……………	二六
(五)	農村に於ける疾病死亡……………	三〇
(イ)	病類別疾病……………	三〇
(ロ)	診療科別疾病……………	三三
(ハ)	病類別死亡原因……………	三五
(ニ)	寄生蟲……………	三八
(ホ)	トラホーム……………	四〇
三、職業別疾病死亡……………		四二
(一)	俸給生活者……………	四二
(イ)	地方逓信官署職員の疾病……………	四二
(ロ)	健康保険課職員の疾病……………	四五
(ハ)	警察官吏の疾病死亡……………	五〇
(ニ)	健康保険法の適用を受ける職員の疾病死亡……………	五二
(二)	農業従業者……………	五三

(三)	労働者……………	五八
(四)	學生……………	六二
(五)	陸海軍軍人……………	六四
(イ)	陸軍軍人の疾病……………	六四
(ロ)	海軍軍人の疾病……………	六五
(六)	職業別死亡率……………	六五
(七)	外國に於ける實績……………	六七
四、生活程度別疾病……………		七三
五、貧困と疾病……………		七五
(一)	貧困原因としての疾病……………	七五
(二)	細民の疾病……………	八二
(三)	失業者の疾病……………	八七
第二部 醫療機關に關する資料		
一、診療機關の數並分布……………		八九
(一)	官立病院及公立病院……………	九〇

(二)	私立病院	九〇
(三)	病院に非ざる診療所	九二
(イ)	一般診療所	九二
(ロ)	歯科診療所	九三
(四)	特種診療機關	九四
二、病 床 數		一〇一
三、醫師、歯科醫師、藥劑師、賣藥業者及産婆の數並分布		一〇六
(一) 醫 師		一〇七
(イ)	市町村別分布	一〇七
(ロ)	道府縣別分布	一〇七
(ハ)	無醫町村數及人口	一一〇
(二) 歯科醫師		一二四
(イ)	市町村別分布	一二四
(ロ)	道府縣別分布及無醫町村	一二四
(三) 藥 劑 師		一二八

(イ)	市町村別分布	一二八
(ロ)	道府縣別分布及藥劑師の在住せざる町村	一二八
(四) 賣藥業者		一二三
(イ)	賣藥製造營業者	一二三
(ロ)	賣藥請賣業者數及賣藥行商者數	一二三
(五) 産 婆		一二六
(イ)	市町村別分布	一二六
(ロ)	道府縣別分布及産婆の存住せざる町村	一二七

第三 醫療費に関する資料

一、はしがき	一二三
二、平均醫療費	一二三
(一) 農村居住者の醫療費	一二三
(a) 農村保健衛生實地調査成績に依る結果	一二四
(b) 愛知縣經濟更生計畫に依る結果	一二五
(c) 農家經濟調査の結果	一二六

(d)	國民健康保險類似組合の成績	一四一
(二)	都會地居住者の醫療費	一四四
(1)	俸給生活者の醫療費	一四四
(a)	家計調査(内閣統計局)の結果	一四四
(b)	俸給生活者生計調査(協調會)の結果	一四八
(c)	健康保險課職員の醫療費調査	一五一
(d)	社會事業従事者の醫療費調査	一五二
(e)	警察共済組合の實績	一五三
(ロ)	勞働者の醫療費	一五四
(a)	家計調査(内閣統計局)の結果	一五五
(b)	職工生計調査(社會局)の結果	一五六
(c)	職工生計調査(協調會)の結果	一五七
(d)	健康保險の實績	一六二
(三)	醫師の所得より見たる醫療費	一六三
	三、醫療費の内譯	一六三

(一)	病類別	一六三
(二)	診療方法別	一六六
	四、醫療料金	一七〇
(一)	一般醫療料金	一七〇
(二)	齒科醫療料金	一七二

第四部 救療事業概況

	一、はしがき	一九一
	二、救療を要する者	一九二
	三、救護法實施狀況	一九五
(一)	救護法に依る救護に於ける救療の地位	一九五
(二)	醫療助産及埋葬狀況	一九六
	四、時局匡救醫療救護狀況	二〇一
	五、濟生會救療事業概況	二〇四

附 錄

	一、我國の人口増加率	二〇九
--	------------	-----

一、諸外國に於ける人口増加率……………	二〇九
一、市町村別人口……………	二一〇
(イ) 調査當時の市域に依るもの……………	二一〇
(ロ) 昭和十年十月一日に於ける市域に依るもの……………	二一〇
一、諸國の大都市人口……………	二一一
一、有業率……………	二一一
一、有業者の職業別……………	二一一
一、有業者の地位別……………	二一二
一、有業者の産業別……………	二二三
一、世帯人員別普通世帯數及人口……………	二二四
一、産業別普通世帯數及人口……………	二二四
一、年齢階級別人口數……………	二二五
一、人口階級別市町村數及人口……………	二二六
一、道府縣別市町村數及人口……………	二二七
一、道府縣別世帯數及人口……………	二二九
一、農山村世帯の所得階級別……………	二三三
一、第三種所得額別世帯數……………	二三三

第一部 疾病死亡に関する資料

第一部 疾病死亡に關する資料

一、疾病死亡の概況

我國民の保健状態は、近來良好に向ひつゝありと稱せらるゝも、國民保健状態の標準と謂はるゝ各種の死亡率に就いて、歐米諸國のそれに比較するときは、相當の懸隔の存することを知るのである。即ち昭和十年に於ける我國の死亡率は、人口千人に對し一六・八であり、之を諸外國に比較するときは、佛蘭西の一五・七、伊太利の一三・九、英吉利の一二・八、和蘭の如きは僅かに八・七にして之等に比し我國の死亡率は著しく高きを示してゐる。又死亡率中兒童保健状態の尺度とも謂ふべき乳兒死亡率を我國最近（昭和十年）の事實に據つて觀るも生産百人に對し一〇・七を示し、之を諸外國に比すれば著しく高率にして實に其の二倍、三倍に達する状態である。

我國民の死亡原因に就き最近の状況を觀察するに、最も多きを占むるは結核にして、人口一萬人に對し昭和十年は一九人にして、世界文明國中の首位を占めてゐる。次は腦出血、下痢及腸炎、肺炎にして之等四疾患は我國死因中の最も大なるものに屬する、而して結核は其の青少年期に於て多く罹患する點に於て他の三者と異り最も國民に慘害を及ぼしつゝある。結核、肺炎に依る死亡率は大都市に於て高く、下痢、腸炎及腦出血に依る死亡率は農村に於て高いのである。

我國民の死亡を年齢別に觀察するに（昭和五年の事實に依る）「一〇—一四歳」のもの千人に付三・二を最低とし大體に於て年齢の進むに伴ひ次第に死亡率は増加し平均一八・二以上にあるものは「〇—四歳」の乳幼兒四四・八を始めとし五五歳以上の各階級に屬するものである。而して徴兵適齡直後の「二〇—二五歳」の者の死亡率九・六は平均以下であるが「五—三九歳」のもの、内で最も高率を示してゐる。

上述の死亡統計に依りて略我國民保健狀態の一般は想像し得るのであるが、國民の疾病狀況に就ては、現在適切なる統計資料を缺き遺憾ながら其の詳細を知ることが困難である。併し乍ら既存の資料を以つて之を概観すれば、日本醫師會の昭和十一年十月一日現在に於て全國的に調査したるものより推算すれば罹病率は人口百人に付患者二・九五從つて全人口一人當一ヶ年罹病日數は約十一日である。次に静岡縣醫師會の昭和十年十月一日現在に於て調査したる静岡縣民の罹病率は人口百人に付患者一・八八にして之より推算すれば、人口一人當年罹病日數は約七日である。又濟生會が細民に付き昭和九年一ヶ年に亘り實地調査したるものに依れば、調査人員三、三九一人罹病人員は一、六三三人にして、調査人員の四八・二に相當する。而して罹病者一、六三三人の罹病回數は二、四一一回にして、罹病一回に對する平均罹病日數は六十五日強であり、調査人員一人當年罹病日數は約四十六日である。更に職員例として警察共濟組合員の罹病率（自大正十五年至昭和十年、十ヶ年平均）に就て觀れば組合員百人に付一ヶ年三十七人である。

以上は我國民の疾病死亡の概況であるが、更に疾病死亡に付地方的に之を觀察し、次いで職業と疾病及貧困と疾病に就て觀察することとする。

各國の死亡率（人口千人に付死亡）

年	次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	北米 合衆國	白耳義	利蘭
明治三十七年	(一九〇四年)	二〇・三	一六・六	一九・四	二二・二	一九・六	一六・五	一六・九	一五・九
同三十八年	(一九〇五年)	二二・一	一五・六	一九・六	二三・〇	一九・八	一六・〇	一六・五	一五・三
同三十九年	(一九〇六年)	一九・八	一五・七	一九・九	二〇・九	一八・二	一五・七	一六・四	一四・八
同四十年	(一九〇七年)	二〇・九	一五・五	二〇・二	二〇・九	一八・〇	一六・〇	一五・八	一四・六
同四十一年	(一九〇八年)	二〇・九	一五・三	一八・九	二二・八	一八・一	一四・八	一六・五	一五・〇
同四十二年	(一九〇九年)	二二・九	一五・〇	一九・一	二二・七	一七・二	一四・四	一五・八	一三・七
同四十三年	(一九一〇年)	二二・一	一四・〇	一九・八	一九・九	一六・二	一五・〇	一五・二	一三・六
同四十四年	(一九一一年)	二〇・三	一四・八	一九・四	二二・四	一七・三	一四・二	一六・四	一四・五
同四十五年	(一九一二年)	一九・九	一三・九	一七・五	一八・二	一五・六	一三・九	一四・八	一二・三
大正元年	(一九一三年)	一九・四	一四・三	一七・七	一八・七	一五・〇	一四・一	一四・六	一二・四
同二年	(一九一四年)	二〇・五	一四・四	一七・一	一九・九	一九・〇	一三・六	一四・一	一二・四
同三年	(一九一五年)	二〇・一	一六・二	二二・二	二〇・四	一九・二	一四・一	一三・一	一二・五
同四年	(一九一六年)	二二・五	一四・八	二二・九	一九・七	一九・二	一四・〇	一三・一	一二・〇
同五年	(一九一七年)	二二・四	一四・八	二二・六	一九・二	二〇・六	一四・二	一六・三	一二・二
同六年	(一九一八年)	二二・八	一七・八	二六・六	二二・〇	二四・八	一八・三	二〇・八	一七・二
同七年	(一九一九年)	二二・八	一四・八	一九・〇	一八・八	二五・六	二二・〇	二五・〇	一二・三
同八年	(一九二〇年)	二二・四	二二・九	一七・二	一八・七	二五・二	二二・一	二二・八	一二・〇
同九年	(一九二一年)	二二・七	二二・五	一七・七	一七・四	二二・九	二二・七	二二・八	一一・一
同十年	(一九二二年)	二二・七	二二・五	一七・七	一七・四	二二・九	二二・七	二二・八	一一・一

備考
一、表中*印を附したるものは概數である。
二、衛生局國民保健統計に依る。

(生産百人に付一歳未満者の死亡)

明治一九一二三年（一八六—一八九〇年）

備考 衛生局國民保健統計に依る。

(人口一萬人に付)

腸チフス及パラチフス

病 類 別	日 本 (一九三五年)	イ ン グ ラ ン ド (一九三五年)	佛 蘭 西 (一九三五年)	獨 逸 (一九三五年)	伊 太 利 (一九三五年)	白 耳 義 (一九三五年)	和 蘭 (一九三五年)
發疹	0.00		0.00		0.00		
瘡	0.00		0.01		0.00		
疥癬	0.00		0.01		0.00		
紅斑	1.42	0.33	0.01	0.23	0.07	0.33	
麻疹	0.07	0.14	0.10	0.18	0.26	0.06	
百日咳	1.76	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	
流行性感冒	0.04	1.83	2.19	1.33	2.73	1.93	
呼吸器病	1.07	6.75	1.33	6.05	6.55	5.55	
其他	5.02	1.23	1.82	1.14	2.34	1.06	
微菌	0.80	0.32	0.80	0.34	0.40	0.11	
マラリア	0.01	0.00	0.03	0.01	0.00	0.00	
其ノ他ノ傳染病及寄生蟲病	5.57	0.94	1.33	1.11	2.04	0.96	
癌、其ノ他ノ惡性腫瘍	7.09	15.87	9.63	14.27	8.88	10.66	
良性腫瘍及惡性、良性ノ別不明ノ腫瘍	0.03	0.69	1.03	0.73	0.33	0.99	
慢性レウマチス及痛風	0.06	0.88	0.09	0.33	0.33	0.63	
糖尿	0.36	1.64	1.03	1.73	1.03	1.73	
慢性及急性アルコール中毒	0.04	0.03	0.17	0.07	0.13	0.03	
其ノ他ノ全身病及慢性中毒	2.35	2.22	0.92	1.53	1.81	0.80	
脊髄癆及麻痺性癱瘓	0.07	0.00	0.06	0.07	0.25	0.98	
腦出血、腦栓塞及腦血栓	1.65	6.63	1.32	8.92	1.34	9.99	

其ノ他ノ神經系及感覺器ノ疾患	七・九六	二・七	四・〇七	二・九六	三・九	四・五四	二・三
心臓ノ疾患	五・七六	二・三	一五・一七	二・八六	一五・三	一九・四八	二・三
其ノ他ノ血行器ノ疾患	〇・九三	六・四三	三・七	四・六〇	三・六	三・〇四	二・八三
氣管支炎	三・五〇	三・八八	二・〇七	一・四五	三・八五	三・二三	一・三〇
肺炎	一五・二七	六・五九	七・七	七・六	一九・三四	七・五九	六・六四
其ノ他ノ呼吸器ノ疾患(結核性ヲ除ク)	四・四六	一・一六	九・六	二・三	二・二三	四・〇四	一・〇九
下痢及腸炎	一六・一九	一・一八	二・二七	一・六四	一・二五	二・二三	〇・七九
蟲癆	〇・三五	〇・七三	〇・四三	〇・八四	〇・六五	〇・八三	〇・五二
肝臓及膽道ノ疾患	一・八一	一・〇三	二・九	一・八三	一・八五	一・九三	〇・九二
其ノ他ノ消化器ノ疾患	七・九九	三・三六	三・二	二・八五	二・九二	三・七二	一・八九
腎臓炎	八・〇九	三・九五	四・五	一・八二	四・二	三・〇三	二・九二
其ノ他ノ泌尿生殖器ノ疾患	〇・七九	一・九八	一・〇六	一・八〇	一・三	一・二七	一・六
產褥熱	〇・二〇	〇・二五	〇・四	〇・四二	〇・二九	〇・三	〇・一九
其ノ他ノ妊娠、分娩及産褥ノ疾患	〇・六三	〇・六	〇・六	〇・五〇	〇・四二	〇・五四	〇・四二
皮膚、皮下結締組織、骨及運動器ノ疾患	〇・七六	〇・七一	〇・四〇	〇・七七	〇・八一	〇・五	〇・四二
先天性弱質、畸形、早産	二・二五	四・七〇	三・六	六・七	七・八	三・二三	四・六二
老衰	二・四	四・八	二・〇六	九・九八	九・五二	二・〇三	六・六
自殺	二・〇五	一・元	二・〇〇	二・八七	〇・七六	一・八〇	〇・八〇
他殺	〇・〇六	〇・〇四	〇・一一	〇・一四	〇・一九	〇・一八	〇・〇四
外因死又ハ不慮ノ死(自殺及他殺ヲ除ク)	四・一七	四・〇七	四・九四	三・八八	三・五三	二・九三	二・七
不明ノ診斷及不詳ノ原因	四・八六	〇・三三	二・〇九	一・九八	一・七	八・一五	三・二四
總計	一七・七八	一七・四六	一七・八七	一〇・三六	二六・七二	二二・七二	八七・三四

備考 衛生局國民保健統計に依る

各國民の平均壽命

年齡別	男女別	日本	英吉利	佛蘭西	獨逸	伊太利	奧地利	瑞西	和蘭	瑞典	諾威	丁抹
零歲	女男	四六・八	五五・六	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
一歲	女男	四六・九	五五・六	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
二歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
三歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
四歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
五歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
六歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
七歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
八歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
九歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九
一〇歲	女男	四六・二	五五・七	五五・九	五五・八	五五・八	五五・五	五五・三	五五・九	五五・三	五五・八	五五・九

備考 一 表中日本は大正十五年、昭和五年、英吉利は一九二〇—一九三三年、佛蘭西は一九二〇—一九三三年、瑞西は一九二〇—一九三三年、和蘭は一九二〇—一九三三年、瑞典は一九二〇—一九三三年、諾威は一九二〇—一九三三年、丁抹は一九二〇—一九三三年の事實に依る。

年齡別死亡率 (各年齡階級人口千人に付死亡)

年齡階級	大正十年	昭和五年
零歲—四歲	一六・六	一四・二
一歲	五〇・二	三九・九
二歲	二五・三	二〇・六
三歲	一五・五	一三・二
四歲	一〇・〇	八・七
五歲	五・八	四・七
六歲	四・四	四・一
七歲	三・〇	二・七
八歲	二・五	二・三
九歲	二・四	二・二
十歲	二・三	二・一
十一歲	二・二	二・〇
十二歲	二・一	一・九
十三歲	二・〇	一・八
十四歲	一・九	一・七
十五歲	一・八	一・六
十六歲	一・七	一・五
十七歲	一・六	一・四
十八歲	一・五	一・三
十九歲	一・四	一・二
二十歲	一・三	一・一
二十一歲	一・二	一・〇
二十二歲	一・一	〇・九
二十三歲	一・〇	〇・八
二十四歲	〇・九	〇・七
二十五歲	〇・八	〇・六
二十六歲	〇・七	〇・五
二十七歲	〇・六	〇・四
二十八歲	〇・五	〇・三
二十九歲	〇・四	〇・二
三十歲	〇・三	〇・一
三十一歲	〇・二	〇・〇
三十二歲	〇・一	〇・〇
三十三歲	〇・〇	〇・〇
三十四歲	〇・〇	〇・〇
三十五歲	〇・〇	〇・〇

一年、和蘭は一九二一—一九三〇年、諾威は一九二一—一九三二年、一九三〇—一九三一年、瑞典は一九二六—一九三〇年、丁抹は一九二六—一九三〇年、伊太利は一九三〇—一九三二年、奧地利は一九三〇—一九三三年、獨逸は一九三三年の事實に依る。

二 衛生局年報に依る。

年 齡 階 級	大正十四年		昭和五年	
	男	女	男	女
四十歳	一一・一	一〇・五	一〇・二	九・七
四十五歳	一四・六	一一・二	一四・三	一〇・七
五十歳	二〇・一	一四・三	二〇・〇	一三・七
五十五歳	三〇・五	二〇・二	二八・八	一八・七
六十歳	五三・五	三六・九	五一・〇	三四・二
七十歳	一一四・三	八五・〇	一一一・三	八三・八
八十歳	二二九・五	一七六・八	二一八・七	一七八・六
九十歳	三二八・二	二八三・七	三六五・一	三〇一・四
平均	二〇・七	一九・八	一八・六	一七・七
平均	平均		平均	

備考 衛生局國民保健統計に依る。

人口千人に付患者數 (昭和十一年十月一日現在)

病 類 別	人口千人に付	千 分 率	病 類 別	人口千人に付	千 分 率
内 肺 結 核 科	一一・七二	三九八	法 定 傳 染 病	・二一	七
内 肺 結 核 科	二・一四	七三	外 生 殖 器 病	三・七九	一二九
内 肺 結 核 科	四・〇四	一三七	泌 尿 生 殖 器 病	一・四四	四九
内 肺 結 核 科	五・五四	一八八	皮 膚 病	一・一一	三七
内 肺 結 核 科	五・五九	一三	産 婦 人 科	一・〇六	三六
精 神 病	三九	一三			

小 兒 科	三・六〇	一二二	眼 科	一二七
結 核 性 疾 患	・三一	一〇	耳 鼻 咽 喉 科	八二
消 化 器 疾 患	一・六四	五六		
其 他	一・六五	五六		

備考 日本醫師會に於て調査せる結果より推定せるものなり。

各國の結核死亡率 (人口一萬人に付)

年 次	日 本	英 吉 利	佛 蘭 西	伊 太 利	獨 逸	北 米 國 家	和 蘭	白 耳 義	丁 抹
大正元年 (一九一二年)	三・九	二・八	三・二	一・四	一・五	一・五	一・四	二・九	二・六
同 二 年 (一九一三年)	三・〇	二・五	三・三	一・四	一・三	一・四	一・三	?	二・六
同 三 年 (一九一四年)	三・三	二・六	三・六	一・五	一・四	一・四	一・四	?	二・六
同 四 年 (一九一五年)	二・三	一・五	三・八	一・五	一・三	一・四	一・四	?	二・六
同 五 年 (一九一六年)	三・一	一・六	三・五	一・六	一・二	一・四	一・四	?	二・六
同 六 年 (一九一七年)	三・三	一・六	三・三	一・七	一・二	一・四	一・四	?	二・六
同 七 年 (一九一八年)	三・三	一・七	三・二	一・七	一・二	一・四	一・四	?	二・六
同 八 年 (一九一九年)	三・六	一・三	三・〇	一・七	一・一	一・四	一・四	?	二・六
同 九 年 (一九二〇年)	三・四	一・三	二・七	一・六	一・〇	一・四	一・四	?	二・六
同 十 年 (一九二一年)	三・三	一・三	二・九	一・四	一・〇	一・四	一・四	?	二・六
同 十 一 年 (一九二二年)	三・七	一・二	?	一・四	一・〇	一・四	一・四	?	二・六
同 十 二 年 (一九二三年)	三・〇	一・〇	?	一・四	一・〇	一・四	一・四	?	二・六
同 十 三 年 (一九二四年)	三・三	一・〇	?	一・四	一・〇	一・四	一・四	?	二・六

年	次	日	本	英	吉	利	佛	蘭	西	伊	太	利	獨	逸	合	北	衆	國	米	和	蘭	白	耳	義	丁	抹
同	十四年	(一九二五年)	一九・四 ^人	二〇・四 ^人	一五・九 ^人	二五・〇 ^人	二〇・六 ^人	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	八・七	九・九 ^人	二〇・一 ^人	九・二				
昭	正和	(一九二六年)	一八・七	一九・六	一六・四	一四・四	九・八	九・八	八・七	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	九・六	八・二				
和	二	(一九二七年)	一九・五	一九・七	一七・四	一三・四	九・三	八・一	九・七	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・四	九・七	七・八				
同	三	(一九二八年)	一九・二	九・二	一六・五	一二・五	八・八	七・九	七・五	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	八・四	九・三	七・四				
同	四	(一九二九年)	一九・七	九・六	一六・七	一二・二	八・七	七・九	七・二	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	八・六	九・七	七・四				
同	五	(一九三〇年)	一八・六	九・〇	一六・一	一二・一	七・九	七・九	七・二	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	九・一	七・一				
同	六	(一九三一年)	一八・六	九・〇	一六・一	一二・一	七・九	七・九	七・二	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	九・一	七・一				
同	七	(一九三二年)	一八・〇	八・四	一五・二	一一・八	七・九	七・九	七・二	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	九・一	七・一				
同	八	(一九三三年)	一八・八	八・二	一三・一	一〇・四	七・六	七・六	六・二	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	九・五	六・九				
同	九	(一九三四年)	一九・三	七・六	一三・二	一〇・九	七・三	七・三	六・〇	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	六・六	九・五	六・九				
同	十	(一九三五年)	一九・一	七・二	?	?	?	?	?	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・八	五・八				
備考	衛生局國民保健統計に依る。																									

結核豫防法に依る醫師よりの届出結核患者數
(一) 月 別

月 別	男	女	計	月 別	男	女	計
七 月	九九一	八一七	一、八〇八	十 月	一、二二三	一、〇三四	二、二五七
八 月	一、八九九	一、四〇一	三、三〇〇	計	五、九一九	四、六三八	一〇、五五七
九 月	一、八〇六	一、三八六	三、一九二				
備考	昭和十一年衛生局調査に依る。						

(二) 年 齡 別

年齡階級別	男	女	計	年齡階級別	男	女	計
一 歳—五 歳	三二	三〇	六二	三十一歳—三十五歳	六七七	四五二	一、一二九
六 歳—十 歳	六四	五九	一二三	三十六歳—四十歳	四三二	二六七	六九九
十一歳—十五歳	一七六	三三四	五一〇	四十一歳—五十歳	五三二	三一七	八四九
十六歳—二十歳	一〇九二	一〇八六	二、一七八	五十一歳—六十歳	三四三	一九六	五三九
二十一歳—二十五歳	一三三七	一〇二四	二、三六一	六十一歳—七十歳	一七四	八二	二五六
二十六歳—三十歳	一〇六〇	七九一	一、八五一	計	五、九一九	四、六三八	一〇、五五七

(三) 地 方 別

地 方 別	男	女	計	地 方 別	男	女	計
北 海 道	九五九	七七四	一、七三三	福 島	四九	一九	六八
青 森 県	一一三	一〇三	二二六	茨 城 県	三二	二四	五六
岩 手 県	一三一	一三二	二六三	栃 木 県	八	四	一二
宮 城 県	三九	三八	七七	群 馬 県	五五	五六	一一一
秋 田 県	一四	二三	三七	埼 玉 県	九三	七一	一六四
山 形 県	六四	五二	一一六	千 葉 県	一七	一一	二八

地方別	男	女	計	地方別	男	女	計
東 京	六五〇人	四五二人	一、一〇二人	神 川	八二八	五二七	一、三五五
神 奈 川	八二八	五二七	一、三五五	新 潟	五一	四四	九五
富 山	四六	三三	七九	廣 島	九八	一五	一、一三
石 川	一六二	一五五	三一七	山 口	七五	八五	一六〇
福 井	二六五	二四一	五〇六	徳 島	一五	一〇	二五
山 梨	二六	一二	三八	香 川	一〇一	五八	一五九
長 野	二二	二三	四五	愛 媛	五四	六二	一一六
岐 阜	一三	一五	二八	高 知	五六	五六	一一二
静 岡	一六四	四九	二一三	福 岡	二一八	一七二	三九〇
愛 知	一九一	一七五	三六六	佐 賀	一〇	一二	二二
三 重	一一九	一〇八	二二七	長 崎	七〇	四二	一一二
滋 賀	七四	五六	一三〇	熊 本	一九九	一四九	三四八
大 都	一九六	一四六	三四二	大 分	八	七	一五
兵 庫	一二三	七八	二〇一	宮 崎	一二七	一一三	二四〇
奈 良	一一	七五	一九九	鹿 嶋	三四	四二	七六
和 歌 山	一一	八二	一九三	沖 縄	九	五	一四
合 計	五、九一九	四、六三八	一〇、五五七				

二、地方別疾病死亡

(一) 府縣別疾病率

府縣別疾病の状況に就ては適確なる統計を缺くを以つて、左に日本醫師會に於て昭和十一年十月一日現在
 の患者數を調査したるものを掲げることとする。

人口百人に對する疾病人員

道府縣別	男	女	平均	道府縣別	男	女	平均
北 海 道	二・三三七	一・九九九	二・一八九	神 奈 川	三・五〇	二・三九	二・九六
青 森 道	一・六八	一・三三	一・五〇	新 潟	二・四六	一・九四	二・二〇
岩 手 城	二・一七九	一・四〇	一・九七	富 山	二・六八	二・五九	二・六六
宮 城 田	二・一八〇	一・四二	一・九六	石 川	三・三九	二・九一	三・一四
秋 田 形	二・〇九	一・八五	一・九六	福 井	二・六八	二・五九	二・六六
山 梨 島	二・三三七	一・六一	一・九六	山 梨 梨	二・〇五	一・四九	一・五〇
茨 城 木	一・八八	一・四五	一・六八	長 野 野	二・〇二	一・八二	一・九二
栃 木 城	一・九〇	一・四八	一・六八	岐 阜 阜	二・三八	一・八三	二・一〇
群 馬 木	一・六三	一・六一	一・六一	静 岡 岡	四・二七	三・二七	三・七七
埼 玉 馬	二・一八	一・八一	二・〇〇	愛 知 知	二・四〇	二・一一	二・二五
千 葉 玉	一・九五	一・五七	一・七八	三 重 重	一・八九	一・五六	一・七二
東 京 京	四・八〇	三・九四	四・四〇	滋 賀 賀	三・二一	二・四九	二・八五

道府縣別	昭和十一年十月一日現在の患者を日本醫師會に於て調査せるものより推算したものである。				昭和十一年十月一日現在の患者を日本醫師會に於て調査せるものより推算したものである。			
	男	女	平均	道府縣別	男	女	平均	道府縣別
大坂	四・四二	三・五一	三・九九	愛媛	二・八九	二・一三	二・五一	愛媛
兵庫	四・四〇	三・二七	三・八四	高知	三・四二	二・八一	三・一一	高知
奈良	一・九四	一・七六	一・八五	福岡	六・二四	三・八八	四・九九	福岡
和歌山	二・七六	二・一七	二・四六	佐賀	三・三五	二・四三	二・八八	佐賀
鳥取	二・五五	二・〇〇	二・二七	長崎	三・九六	二・五二	二・二七	長崎
島根	二・三三	二・〇五	二・一九	熊本	二・四五	一・九四	二・一九	熊本
岡山	三・三三	二・五三	二・九三	大分	三・〇五	二・四九	二・七六	大分
廣島	三・九一	二・九五	三・四四	宮崎	二・三九	一・九七	二・一八	宮崎
山口	二・九六	二・〇五	二・五一	鹿兒島	二・九一	二・二九	二・五九	鹿兒島
徳島	二・七三	二・五九	二・六六	神戶	一・〇七	・八二	・九四	神戶
香川	二・四六	一・九一	二・一八	計	三・三一	二・五八	二・九五	計

(二) 都鄙別疾病率

我國に於て都鄙別疾病の實績に付ては、適確なる統計を缺くけれども、左に掲ぐる表は人口別の市町村に依る疾病率を調査したものである。

都鄙別疾病率

種別	人口別	昭和五年十月一日			昭和十年十月一日		
		人口数	患者数	人口百人=患者数	人口数	患者数	人口百人=患者数
郡	五、〇〇〇人以上	七六七、九一八	一〇、五三八	一・三七	六六六、二六二	九、四一三	一・四一
	一〇、〇〇〇人以上	四六六、一四一	七、五二二	一・六一	五二二、七六六	八、七四七	一・六七
	一五、〇〇〇人以上	一一五、六五七	一、九七七	一・七一	一五三、二〇九	二、六六三	一・七四
市	二〇、〇〇〇人以上	三三、三五〇	六二七	一・八八	五二、四三〇	一、一五一	二・二〇
	三〇、〇〇〇人以上	六六、三五七	一、四六三	二・二〇	九七、一五〇	二、〇六八	二・一三
	小計	一、四四九、四二三	二二、一一七	一・五〇	一、四九一、八一七	二四、〇四二	一・六一
部	五〇、〇〇〇人以上	四三、九五九	一、〇八八	二・四七	四九、七五四	一、四一三	二・八四
	一〇〇、〇〇〇人以上	五五、六六四	一、二八三	二・三〇	六一、一二三	一、四八五	二・四三
	一五〇、〇〇〇人以上	二四二、八四三	六、四六〇	二・六六	三三一、六〇八	九、二七六	二・八〇
合	小計	三三二、四六六	八、八三一	二・五八	四四二、四八五	一二、一七四	二・七五
	計	一、七九一、八八九	三〇、九四八	一・七三	一、九三四、三〇二	三六、二一六	一・八七

備考 静岡縣病勢調査(昭和五年及昭和十年十月一日現在)に依り算出せるものであつて瞬間的疾率である。

之に依ると市部と郡部は著しく疾病率に差等があるけれども、此の統計は現に醫師の診療を受けて居る者のみであつて、實際田舎には地理的事情、經濟的事情に依つて、醫師の診療を受けることが出来ないで手療治、例へば賣藥其の他に依つて治療を爲しつゝあるものも相當ある事を考慮に入れなければならない。

次に社會局に於て全國四、七〇八世帯、其の調査人員二八、六三〇人に付調査人員一人當り疾病件數を都邑別に調査したる結果に依れば、左表の如くである。

市町村別疾病件数 (昭和八年中社会局調)

都 邑 別	調査世帯数	調査人員	無病人員	疾病件数	無病人員ノ調査人員ニ對スル割合	調査人員一當疾病件数
大都市(人口十萬人以上)	三六〇	二、一二四	一、〇〇四	一、一九七	・四七	・五六
中都市(人口五萬人以上)	五〇八	三、一〇七	一、五一七	一、六〇八	・四九	・五二
小都市(人口二萬人以上)	七四三	四、四六九	二、一三三	二、四一四	・四八	・五四
都會地隣接町村	七五八	四、六二九	二、三一〇	二、四二八	・五〇	・五〇
普通農村	一、〇〇一	六、一五九	二、八一三	三、四九〇	・四六	・五七
漁村	六〇七	三、六七〇	一、八〇四	一、九一四	・四九	・五二
山村	七三一	四、四七二	一、八九二	二、六七三	・四二	・六〇
計(平均)	四、七〇八	二八、六三〇	一三、四七三	一五、七二四	・四七	・五五

(三) 府縣別死亡率

我國民の死亡率を地方的に觀察すれば左表の如く、北陸及び之に隣接する地方並に東北地方に高く、九州の南部及大都市の所在する府縣に於て低いのである。

死亡及乳兒死亡地方別 (昭和十年)

府縣別	死 亡	死亡率 (人口千ニ付)	乳兒死亡	乳兒死亡率 (生後百ニ付)
北海道	一八、八七六	一五、九三	二、五七三	二〇、五
青森縣	一八、三三	一八、八六	五、七七	一四、二
大 京 府	二六、六三	一五、四三	四、三七	九、八
大 阪 府	三三、五九	一四、七九	二、七六	二、三

岩手縣	一九、九四	一八、三	五、四〇三	一三、四	四七、三九	一六、三	八、四八七	一〇、三
宮城縣	二〇、五九	一六、六七	五、四四二	一三、二	二、七八	一八、六	二、四四	一三、四
秋田縣	一九、五七	一八、八二	五、六五八	一三、六	一五、三〇	一七、三	二、五四五	一〇、四
山形縣	二〇、三六	一八、一九	五、三四七	一三、〇	八、八二五	一七、九	一、五七	一〇、七
福島縣	二一、四四	一六、七	五、九六六	一〇、七	三、三八	一七、五	四、一六三	一〇、八
茨城縣	二一、七四	一七、六	四、〇七	一〇、八	二、八九二	一六、五	四、九二	九、三
栃木縣	一九、六三	一六、四一	四、〇七	九、五	二、六七	一八、〇	三、四三五	一〇、〇
群馬縣	二〇、六二	一六、四〇	四、〇七	一三、一	二、六五	一九、六	二、七五	一〇、七
埼玉縣	二〇、九八	一八、三	六、〇五三	一三、二	二、一五	一七、五	二、六五	一〇、七
千葉縣	二一、〇三	一八、九	六、六七七	一三、二	二、一五	一七、五	二、六五	一〇、七
東京府	八三、四四	二二、九〇	一三、九七〇	七、九	二〇、一三〇	一七、九	三、六五二	九、五
神奈川縣	七〇、八七	一五、二五	五、三〇九	九、六	二、八三〇	一七、九	二、三六七	一三、三
新潟縣	二五、六二	一八、三	七、四九八	一〇、五	二、八三〇	一六、九	八、六九六	一〇、四
富山縣	一六、九〇	二二、七	四、三三	一四、七	二、〇七	一六、七	二、六二八	一一、四
石川縣	一七、六八	二二、〇三	三、五四	一四、二	三、〇一	一六、九	四、〇一五	九、七
福井縣	一三、八三	二二、九	二、九一八	一四、二	二、〇七	一七、二	三、八〇五	八、八
山梨縣	一一、一〇	一七、七	二、三五六	一〇、九	一、八八五	一九、三	三、五七八	一一、一
長野縣	二七、四三	一六、〇〇	四、七六九	八、九	一、三五八	一六、四	二、五八	八、九
岐阜縣	三三、四〇	一八、三	四、五四三	一〇、〇	一、六五四	一六、七	四、五二六	八、六
静岡縣	三三、九四	一六、九	七、二九九	一二、二	九、五六五	一六、四	八、八五	五、四
愛知縣	四〇、八八	一五、六	九、〇五	一〇、一	一、二六、九三六	一六、六	二、三、七〇六	一〇、七
三重縣	三三、五五	一八、元	四、四九六	一二、一				
滋賀縣	一四、〇四	一八、四	二、三九九	一二、一				
合 計								

右に依ると人口千人に付死亡率の最も高きは石川県二三・〇三にして福井縣の二一・三九富山縣二一・二七島根縣一九・八八徳島縣一九・六〇大分縣の一九・二一奈良縣の一八・九八等之に次ぎ、其他青森、秋田千葉、三重、佐賀、岩手、滋賀、岐阜、埼玉、新潟、山口、山形等の諸縣は全國平均（一六・七八）を超える主なるものである。又死亡率の最も低きは東京府の一二・九〇であつて、大阪府の一四・七九神奈川縣の一五・一五京都府の一五・四三愛知縣の一五・六八北海道の一五・九三長野縣の一六人沖繩縣の一六・一四等之に次いで低く、何れも全國の平均以下にある。

次に乳兒死亡率に就て見れば、生産百人に付き富山縣一五・二最も高く、次は石川、福井、青森、奈良、岩手、秋田縣の順序であり、又最も低いのは沖繩縣の五・四にして、東京府、鹿兒島縣、宮崎縣、長野縣等之に次いで低く、全國平均以下にある。

更に結核に因る死亡を地方別に見れば、次の通りで人口一萬人に付全國的平均は一九・〇八である。

結核死亡地方別 (昭和九年)

府縣別	實數			人口一萬人に付		
	呼吸器ノ結核 (肺病及氣管炎ノ) 結核	其ノ他ノ結核	全結核	呼吸器ノ結核 (肺病及氣管炎ノ) 結核	其ノ他ノ結核	全結核
府	五、一七八人	二、二一八人	七、三九六人	一六・八八人	七・二三人	二四・一〇人
北海	一、二八二人	四五四人	一、七三六人	一三・二六人	四・六九人	一七・九五

岩手縣	九二一	四一六	一、三三七	八・八〇	三・九八	一二・七八
宮城縣	一、一六二	五三九	一、七〇一	九・四一	四・三七	一三・七八
秋田縣	九七六	三六〇	一、三三六	九・四一	三・四七	一二・八七
山形縣	九七七	三八七	一、三六四	八・九七	四・〇〇	一二・九七
福島縣	一、四一九	六三三	二、〇五二	七・四五	三・二七	一〇・七二
茨城縣	一、一五四	五〇六	一、六六〇	九・〇五	三・三六	一二・四一
栃木縣	一、〇八一	四〇二	一、四八三	一一・七八	四・四三	一六・二〇
群馬縣	一、四六三	五五〇	二、〇一三	一〇・八一	四・五七	一五・三八
埼玉縣	一、六五二	六九九	二、三五二	九・〇一	三・三六	一二・三七
千葉縣	一、三九三	五二〇	一、九一三	一六・五九	五・二八	二一・八七
東京府	一〇、五六九	三、三六一	一三、九三〇	一五・七五	四・九八	二〇・七三
神奈川縣	二、八九八	九一六	三、八一四	一二・九八	六・五八	一七・七三
新潟縣	二、五九二	九四六	三、五三八	二〇・五六	一〇・七一	三〇・四七
富山縣	一、一〇九	五二六	一、六三三	一五・五〇	七・一四	二二・六四
石川縣	一、五八〇	八二三	二、四〇三	九・四二	五・一一	一四・五三
福井縣	一、〇〇二	四六二	一、四六四	七・九三	四・三一	一二・二五
山梨縣	五一三	二七九	七九二	一五・〇六	六・三一	二一・三七
長野縣	一、六一五	八七五	二、四九〇	一三・三一	四・八三	一八・九二
岐阜縣	一、八四六	七六九	二、六一九	一五・〇九	四・一五	一九・二四
静岡縣	二、五八二	七六九	三、三五二	一五・〇九	五・五二	二〇・九二
愛知縣	四、三二一	一、三八二	五、七〇三	一五・〇九	五・五二	二〇・九二
三重縣	一、七七二	四八八	二、二六〇	一五・三九	五・五二	二〇・九二
滋賀縣	一、〇九五	三九三	一、四八八	一五・三九	五・五二	二〇・九二

府 縣 別	實 數			人 口 一 萬 人 = 付		
	呼吸器ノ結核 (肺病及氣管炎)	其ノ他ノ結核	全 結 核	呼吸器ノ結核 (肺病及氣管炎)	其ノ他ノ結核	全 結 核
京 都 府	三、二二三	一、一七四	四、四〇七	一八、九九	六、九〇	二五、八九
大 阪 府	八、〇六八	二、五九三	一〇、六六一	一八、七八	六、〇三	二四、八一
兵 庫 縣	五、一七〇	一、七五五	六、九二五	一七、六九	六、〇〇	二三、六九
奈 良 縣	九四九	三三九	一、二八八	一五、二九	五、四六	二〇、七六
和 歌 山 縣	一、三〇〇	三八二	一、六八二	一五、〇四	四、四二	一九、四七
鳥 取 縣	五九九	二七〇	八六九	一二、二一	五、五一	一七、七二
島 根 縣	一、一二四	三八九	一、五一三	一一、〇四	五、二一	二〇、二五
岡 山 縣	一、五二一	六二〇	二、一四一	一一、四一	四、六五	一六、〇七
廣 島 縣	二、二八七	一、〇三四	三、三二一	一二、六七	五、七三	一八、四〇
山 口 縣	一、七一八	六二〇	二、三三八	一四、四三	五、二一	一九、六四
徳 島 縣	一、一〇六	四二四	一、五三〇	一五、一八	五、八二	二〇、九九
香 川 縣	一、〇二三	四一四	一、四三七	一三、六六	四、五三	一九、一九
愛 媛 縣	一、八七〇	五三一	二、四〇一	一六、〇五	四、五六	二〇、六一
高 知 縣	九三四	二〇八	一、一四二	一三、〇六	二、九一	一五、九七
福 岡 縣	四、〇四四	一、三六一	五、四〇五	一四、六七	四、九四	一九、六一
佐 賀 縣	八六五	二七八	一、一四三	一二、六一	四、〇五	一六、六六
長 崎 縣	一、九〇一	五九五	二、四九六	一四、六六	四、五九	一九、二五
熊 本 縣	一、七九五	四五二	二、二四七	一二、九四	三、二六	一六、二〇
大 分 縣	一、四四三	四九〇	一、九三三	一四、七二	五、〇〇	一九、七二
宮 崎 縣	九八七	二三八	一二二五	一一、九七	二、八九	一四、八六

鹿 兒 島 縣	二、二三八	五九二	二、八三〇	一四、〇六	三、七二	一七、七八
沖 繩 縣	一、〇八二	三〇六	一、三八八	一八、二六	五、一六	二三、四三
總 計	九七、四〇九	三四、七四二	一三二、一五一	一四、〇七	五、〇二	一九、〇八

備考衛生局國民保健統計に依る。

右表に依れば、結核死亡率の高き地方は石川縣三一・二七で京都府の二五・八九大阪府の二四・八一北海道の二四・一〇之に次いで高く、又最も低きは茨城縣の一〇・七二であつて山形縣、山梨縣、千葉縣、栃木縣、秋田縣之に次ぐ。

又傳染病疾患に付て見れば左表の通りである。

法定傳染病 (人口一萬人に對する患者及死者) (昭和十年)

道府縣別	コレラ		赤痢		傷寒		チフス		痘 瘡		發疹		猩紅熱		チフ		流行性腦脊髄膜炎		ペスト	
	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者
北 海 道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
青 森 縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
岩 手 縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮 城 縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
秋 田 縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山 形 縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福 島 縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(四) 都鄙別死亡率

市部と郡部との死亡率を比較観察すれば次の通りである。

市部、郡部別死亡率累年比較

年次	實 數		死 亡 率 (人口千人に付)	
	市	郡	市	郡
大正十五年	二三五、七七九人	九二四、九五五	一七・六八	一九・六〇
昭和元年	二五一、一二七	九六三、一九六	一八・〇二	二〇・三三
同 二	二五五、七五四	九八〇、九五七	一七・六〇	二〇・六一
同 三	二六七、七三五	九九三、四九三	一七・六六	二〇・七九
同 四	二五四、一七一	九一六、六九六	一六・四六	一八・七一
同 五	二七九、九一二	九六〇、九七九	一七・四六	一九・四八
同 六	二七一、三九一	九〇三、九五三	一三・七八	一九・四〇
同 七	三二五、〇三九	八六八、九四八	一五・七九	一八・六三
同 八	三四五、二三五	八八九、四四九	一六・〇〇	一九・〇八
同 九	三三三、六三〇	八二八、三〇六	一四・七四	一七・七七
同 十	二八一、九七七	九二三、〇九三	一六・五二	一九・四四
平均				

備考 衛生局國民保健統計に依る。

右の表に依ると最近十ヶ年平均は市部は人口千人に付一六・五二であるのに、郡部即ち町村は一九・四四で著しく死亡率が高い。

次に乳兒死亡率に付市部と郡部とを大正十五年から昭和十年の十ヶ年間に就て比較すれば左の通りである。

市部郡部の乳兒死亡率比較 (生産百人に付)

年次	市 部	郡 部	年次	市 部	郡 部
大正十五年	一四・二	一三・六	昭和七年	一〇・六	一二・〇
昭和元年	一四・六	一四・一	同 八	一〇・八	一二・五
同 二	一三・五	一三・八	同 九	一一・〇	一二・八
同 三	一四・一	一四・二	同 十	九・一	一一・一
同 四	一七・七	一二・五	平均	一二・八	一三・〇
同 五	一二・七	一三・二			
同 六	一二・七	一三・二			

備考 衛生局國民保健統計に依る。

右の表に依ると十ヶ年の平均では、市部も郡部も大差はない。然しながら昭和三年以降は毎年郡部の方が高率となつてゐる。

死亡率を市町村別に分ち村部即ち農村を中心として市部及町部を觀察すれば、左表に示す如く人口千人に付死亡者數は全國的平均は市部一六・四六町部は一七・八八村部は一九・〇九で、村部即ち農村方面が兩者に比較し高率を示してゐるのは注目に價する。